

出所者支える元受刑者

犯罪件数は減る一方、出所後にまた罪を犯してしまう人は後を絶たず、国も対策に乗り出している。

犯罪白書によると、16年の刑法犯認知件数は99万件で1ヶ時(02年)の3割ほどまで減少。ただ、検挙人数に占める再犯者の割合は48.7%で、現在と同様の統計を始めた1972年以降最悪になった。

政府は昨年末、再犯防止推

再犯者 検挙数の48%

国、115の施策掲げ対策

進計画を閣議決定し、出所後2年以内にまた刑務所に入る人を、15年の18%から21年までに16%以下にするといった目標を掲げ、115の施策を掲げた。▽出所者を積極的に雇う「協力雇用主」の公共事業受注を促進▽刑務所で高卒認定試験などを受け、資格を取得できる機会を拡充▽再犯防止活動に取り組むNPOの支援——などに取り組むこと

マザーハウスは2012年に設立。東京都墨田区の住居街に立つマンションの1室が事務所だ。スタッフは五十嵐さんをはじめ、出所時に支援してくれた弁護士や妻ら計10人。不動産店からアパートのおっせんを受けて出所者の住まいを確保するほか、出所者にはマザーハウスが手がける輸入コーヒーの販売などで働いてもらいながら、一緒に仕事を探す。これまで約40人が職を見つけて自立した。

「自分を見ている人がいる」と分かってもらうことが大切。五十嵐さんは、マザーハウスを知った受刑者から送られてくる手紙に返信し、今では約750人と文通している。収入はコーヒー販売や寄付が専らで赤字だが、五十嵐さんが月3回ほどのペースで大学や

住まい確保 ■ 一緒に職探し

出所者の社会復帰を支えるNPO法人「マザーハウス」(東京)の五十嵐弘志理事長(54)は前科3犯、20年近く服役した。再犯者による事件がなかなか減らない中、出所者の住まいを提供し、仕事に就く手伝いをしている。

教会に講演に赴き、運営を支えている。

自身も両親の離婚を機に中学で非行に走り、3度服役した。「殺人と覚醒剤以外、悪いことはほぼ全部やった」

ただ、前回の服役前、拘留所で手に取った聖書を読み、「なぜ罪を犯すのか」と問われている気がして、自分のしてきたことが怖くなったという。修道女に手紙を出すと、親にも絶縁された自分に会いに来てくれた。初めて一人の人間として見てくれる人に出会った。

あるとき、被害者に謝罪したいと思うようになり、友人を介して知り合った犯罪被害者の親族に相談すると「あなたがすっきりしたいだけだ」と突き放された。

償いとは何か。ある受刑者が「出所しても行く場所がない」と再犯を重ねているの思い出した。11年未に出所し、受刑者の気持ちや境遇がわかる自分が更生を支援し、新たな被害者を生まないことが贖罪になると思い定めた。

「こんな私でも人との出会いで変わった。加害者として一人でも多くつながって立ち直るきっかけになりたい」と話した。

(桑原紀彦)



講演する五十嵐弘志理事長

前科3犯・服役20年…「償い」問う